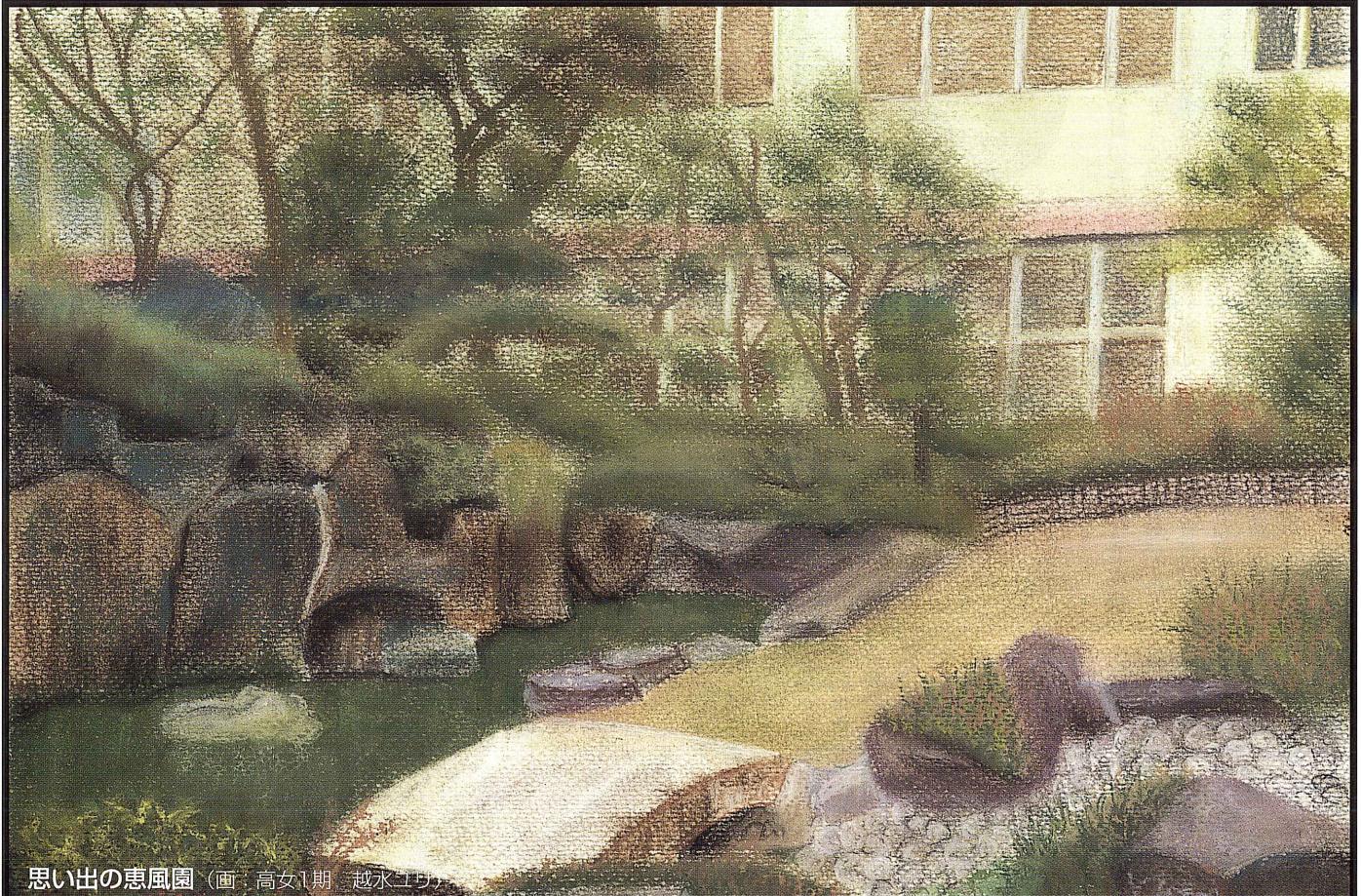




思い出の恵風園 (画: 高女1期 越水ユウ)

尚和会 報

尚和会総会のごあんない

平成14年5月19日 (日)

ホテルアイボリーにて (豊中駅東口すぐ ☎06-6849-1111)

■ 総会……………オーキッドホール 12:00~12:30

■ 立食パーティー…オーキッドホール 12:45~15:00

■ アトラクション

大 道 芸 笑福亭仁勇 (高29期)

マジック 真田 豊実 (高30期)

(プロフィールは裏表紙に)

お楽しみ福引き

■ 会費……………4,000円

(98年以降の卒業生2,000円)



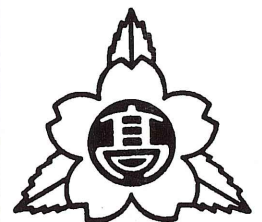
真田豊実さん



笑福亭仁勇さん

2002

平成14年5月1日



発 行——尚和会

発行責任者 田中 渡

編集責任者 安浦 晃



就任のご挨拶

尚和会会長

田 中 渡

このたび尚和会会長の大役を拝命いたしました高校一期の田中でございます。私のような浅学非才な者が会長に選任され、いままさらながらに身の引き締まる思いであります。

前荻野会長をはじめ歴代先輩会長が遺されました数々の業績にたいしまして心から敬意を表します。

平成四年尚和会副会長をお受けして以来、谷田元会長、荻野前会長のもと母校創立六〇周年や会報有料制などの行事と改革に参画してまいり、貴重な研鑽を積みことができましたことに

深く感謝しております。

いま、社会は不況に直面し、少子高齢化の時代を迎え、また学校週五日制など社会情勢の変化と価値観の多様化は現代社会のシンボルとも言えます。

温故知新のごとく先輩諸氏の築かれた光輝く功績を汚すことなく、次の世代に継承しそのなかに新しきを求めて、微力ではございますが尚和会の発展と運営に努めてまいります。今後ともより一層のご支援とご鞭撻をお願い申しあげご挨拶といたします。



ふれあいが楽しみです

桜塚高校校長

長 瀬 尚

尚和会会員の皆様には各界でますますご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は母校への常に変わらぬ温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。さて、私こと、第一七代校長関谷茂紀先生のご勇退

を受け、四月一日付で本校第一八代校長を拝命いたしました。高邁な教育哲学と力強い実践力を兼ね備えておられた前関谷校長の卓越した学校経営を思いいますと、浅学非才の私には身に過ぎた重責ではございます

が、会員の皆様をはじめ、生徒、保護者、地域の皆様のご期待に応えるべく最善を尽くす所存です。前校長同様よろしくお願い申し上げます。

初めて校長として本校を訪れたときの印象は鮮やかです。岡町駅を降りると部活のため登校する生徒の姿が目に入ってきます。桜の花びらをイメージさせてくれるお洒落な女子生徒の制服はスマートな校風を想像させます。商店街を通り過ぎ、市役所のビルが途切れると突然目に飛び込む満開の桜の花に豪華に飾られた広いキャンパス。学校周辺に広がる閑静な住宅地とよく調和が取れた学校の佇まい。隅々までよく手入れされた校内。会員の皆さんが入学された春に受けられたと想像させていただく『桜塚高校』の鮮やかな印象は私にとっても同様に鮮やかでした。府立高校の中でも屈指の恵まれた環境にあるこの桜塚高校に満ちあふれる光と風の中で、繰り広げられた会員の皆様の青春時代に思いを馳せるとともに、今繰り広げられている在校生一人一人の青春のかけがえのなさを改めて実感したしいです。

本校の活発な部活動、体育祭や文化祭でのまとまりと盛り上がり、合唱コンクールやクラスマッチ等々を聞くにつけ、これらはいずれも桜塚高校生の大きな可能性・潜在力を示唆しているように思えます。進路実現の状況も向上しているとのこと。定時制課程の生徒たちが困難を乗り越え、新しい出会いをつくり、目標目指してがんばる姿も感動的です。

二十一世紀を迎えた今日、国際化、科学技術や情報化の進展、少子高齢化、地球規模での環境問題など私たちの社会をめぐる状況は大きく変化しております。国際的にも国内的にも、困難な課題が山積した厳しい時代の到来が予感されます。桜塚高校生にはこれらの変化に対応し、新しい課題に対して積極的に粘り強くチャレンジする姿勢を持った人材に育つことが期待されます。厳しい時代を乗り切るための、先見性を身につけることも大切です。そのためには自主自立の精神と『豊富な知識』『あたりの常識』『豊かな感性』『人とのつながる力』を身に付け、総合させる力が求められます。

さまざまな活動を通じ、自主自立の精神と何事にもチャレンジできる積極性を身に付けている本校生が、国際感覚、語学力、コミュニケーション能力など一層

の磨きをかけ、先見性を持つ人材に育ってくれることを期待してやみません。生徒たちが桜塚高校生としての自信と自覚を持って、自らの可能性を信じ、将来を積極的に切り開く姿を想像するだけでも心が躍ります。着任後数日にしかありませんが、もうすでに何人も尚和会会員の方が私を訪ねてくださっております。皆様の母校を愛するお気持ち



退任のご挨拶

尚和会前会長

荻野 哲 男

振り返りますと、副会長と会長職を歴任して、十八年間の長きに渡り尚和会活動に従事したことになり、我ながらよくやってこれたものと痛感しております。

これもひとえに、会員諸兄姉のご協力、ご支援の賜物と感謝申し上げる次第です。

特に、母校創立五〇周年および六〇周年事業に参画できましたことは、誠に感慨深いものがあります。

また、これまで種々取り組んできました会の改革の内、平成十一年度から実施してまいりました会報有料制については、有料制以前に比べて協力金等が倍増し

ちの深さには身の引き締まる思いです。市役所など学校近辺を二、三挨拶回りしただけで、桜塚高校が地域から愛され、地域に支えられ、地域を支える人材を輩出している学校として伝統を育んできたことがよくわかります。

これから始まる会員の皆様との、生徒達との、保護者の皆様とのふれあいが楽しみです。

たこと、しかも三年連続で好結果を生んでおる現状を鑑みると、会員の皆様には頭が下がる思いで一杯です。誠に有り難うございます。

次に昨年、会の活性化の一環として、同期会開催を支援する助成金制度を発足させましたが、会報有料制とこの制度をセットで考えれば、納得のいく制度であることが解って頂けるものと確信しております。会員の皆様には、この制度を有効に活用して頂き、同期会の活性化を促して頂きますようお願い致します。

私の在任中、良き同志であり、良き理解者でありま

した、故真鍋正一（高三期）、鈴鹿常雄（高四期）両先輩にこの紙面を借りて、改めてご冥福を祈りたいと思います。



その時を迎えて

桜塚高校前校長

関 谷 茂 紀

平成十一年三月末日、岡町商店街を通り抜け校舎が見えるとともに正門の見事なしだれ桜に目を奪われ、「なるほど桜塚」と感心させられて早三年、今年は、例年より極端に早く桜が開花し、すでに満開となり三年前を思い起こさせてくれています。

本校の生徒諸君に対する私の第一印象は、いまでも何ら変わりなく、明るく素直で理解力豊かでいつもやる気満々、友人とすばらしい友達関係を作っています。

尚和会の皆さんは卒業してなお強い絆で結ばれ、会の発展もますます盛んで東京支部は盛大に運営され、また、高校三期、高校四期の方々は卒業五〇周年の記念祝賀会を開催され誠に慶ばしく思います。このような本校に最後に迎えていただいたことはただ感謝の気持ちでいっぱいです。私のこれまでの三五年間の経験

終わりに、母校および尚和会の更なる発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念して私の挨拶とさせていただきます。

を、最終校では全て効果的に発揮出来たらと思いつつ、取り組んできた三年間でしたが、ついにその時を迎えてしまいました。今となつては、本校での初志の幾許が叶えられたものやらと思うばかりです。

尚和会の皆様には、校舎移転後グラウンドに残っていた藤棚を後輩の体育活動のため撤去とあとの整備やら、さらに、入学式、卒業式、体育祭等の行事へ常にご臨席頂き後輩を励ましてくださるなど母校への変わりがご支援をいただき、ありがとうございます。何かといえば、お願いするのみでしたが、お聞き届けいただく尚和会の皆様の母校へ熱き思いを感じさせていただくたびに、それは励みとなり新たなエネルギーとなりました。

さて、在任中でのことは、校舎大庇からのコンクリート塊の剥離落下が起こり、

校舎外周の大改修を行い、大雨の時の繋ぎ目を伝って廊下を濡らす漏水の防止工事も同時に行い、翌年には、体育館の床全面張り替えを行いました。これらは、阪神淡路大震災の影響がまだ残っていたものと考えられます。この他の予定としては、体育館外周工事やエレベータ設置などがあります。平成十四・十五年度着工で計画されますが、大阪府の財政状況によって着工が影響されることは避けられません。

生徒諸君の進路についてですが、大事な人生を左右する大切なことであり、ただ進路を決めるだけのことではなく、各自が将来を見据えて進路を選択できるような指導するとともに、そのための学力をつけることが大切です。第五三・五四期生の今春の進学は、大阪大学三名の合格を始め、非常によく健闘しました。この状況が続くことによって、生徒諸君の桜塚高校への信頼感はさらに増していくこととなります。

また、定時制の皆さんは、昨今の経済情勢の影響を被りアルバイトの件数も少なくなる中、頑張つて学習を続けています。そして、新しい制度の通信制との併修による三年制を卒業された方は、平成十二年度一期生

は一〇名、今年度二期生は一二名でした。さらに、平成十三年度から定時制には学校協議会を設置し、学校職員外で地域の方々六名に委員をお願いし、ご意見を頂き、それを活かしてよりよい定時制高校となるよう体制を整えました。

三年目を迎えて

桜塚高校全日制前教頭 鳥 越 克 明

早いもので、この学校に赴任して九二年が経過しました。尚和会の方々にもいろいろお世話になり、また学校の歴史、伝統について教えていただきました。尚和会の総会などでお目にかかる方々とは、古くからの知人と錯覚するほど親しみを感じることが多くなりました。皆さんが桜塚高校を母校として愛しておられ、本校の発展に多大なる貢献をしておられることを実感しております。今年は学校長も替わり、尚和会の会長も替わられました。尚和会の活動も新しい会長の元で一層の発展をしていくことと期待しております。

対応して生きぬく力である」と思います。桜塚高校の変わらぬ流れは大切にして、必要な改革は大胆に行うことが今後とも求められていくでしょう。短い三年間でしたが、時がまわりました。今後ますますの発展を祈つて尚和会の皆様へ、尽くせぬ感謝の気持ちでお別れのご挨拶とさせていただきます。

学校は今年度（平成十四年）から完全週五日制となりました。明治以来の伝統的な教育の大改革であると考えており、本校では何年もかけて完全五日制の準備をしてきました。また、本年度からは新教育課程が始まり、ゆとりの中で「生きる力」を求める教育が開始されます。一方、学力の向上を目指す声も日増しに強くなっています。土曜日をどう使うか、生徒にとつての自由が増すわけですが、責任のない自由などはありません。学校の束縛からの開放の自由とともに、創造の自由を手にするわけですから。創造の自由をどう行使

するかが生徒の責任でもあります。学力の充実に、部活動に、人生を豊かにする様々な活動に大いに活用して欲しいと思っています。

OBの方々にとっても桜塚高校を見直す機会かも知れません。ゆとりの出来た、土曜日、日曜日に学校に足を運び、部活動等の教育活動を手伝っていただいたり、生涯学習の場として役立てていただければと思います。卒業生の皆様から、「桜塚高校のホームページを見ました、懐かしかったです。」などの感想を頂いております。学校の様子をもっと身近に感じていただけるようホームページも充実していきたいと思っています。

伝統ある桜塚高校として、尚和会会員の皆様は大きな財産です。我々としても大いに活用し、教育活動をより充実したものにしていきたいと思っています。しかし、まだまだ受け入れの態勢が十分ではありません。学校をより開かれたものとし、卒業生の皆様のお力を活用できるよう、また、卒業生の皆様にも生涯学習の場として桜塚高校を活用していただけるようになればと願ひ努力していきたいと思っています。

定通教育の動向に思うこと

桜塚高校定時制前教頭 宮 西 重 久

「文明社会にあつて最大の危機は迫り来る危機を認識できないことである。」（前東北大学長・西沢潤先生の言葉）

昨年の九月、アメリカで起きたテロ事件を契機に我々の心の中に常に「不安」という二文字が付きまとうようになった。日々、変動する世界経済、まさに、現代は激動の時代に入ったと言える。また、勤労青年の学び舎として後期中等教育を担ってきた定時制教育が物質社会の充実により、子どもたちの心のひ弱さと飢えをもたらした結果、様々な困難な生徒に対応しなければならなくなった。また、二十一世紀を迎え「ノーマライゼイション」や「国際化」「情報化」「少子高齢化」が進むとともに「生涯教育」の時代が到来しつつあり、一極集中から一生涯のスパンで教育を見直さなければならぬ時期でもある。そして、社会状況の変化や少子化の中で生徒数が大幅に減少するなど、「教育ビツクパン」が学校現場に及んできていると言える。こういった状況の変化を踏まえ、社会の要請に応えうる

定時制教育の在り方について考えなければならない。教育改革国民会議の報告の中に、二十一世紀はITや生命科学など、科学技術がかつてない速度で進化した世界の人々が直接つながり、情報が瞬時に共有され、経済のグローバル化が進化する時代である。世界規模で社会の構成と様相が大きく変化し、既存の組織や秩序体制では対応できない複雑さが出現している。個々の人間の持つ可能性が増大するとともに、人の弱さや利己心が増大され、人間社会の脆弱性もまた増幅されようとしている。従来の教育システムは、このような時代の流れに取り残されつつある。また、子どもの行動や意識の形成に最も大きな責任を負うのは親である。家庭は、命を大切にすること、単純な善悪をわきまえること、我慢すること、挨拶ができること、団体行動に従えることなど、基礎的訓練を行う場である。また、成長に応じて子ども自身の責任も重くなる。しかし、子どもや親が孤立していたのでは、教育は十分に効力を発揮し得な

い。親自身の教育が問題という場合も少なくない。また、核家族化、都市化などにより家庭の様相が大きく変貌している。このため、親だけに任せず、社会の英知を集め、家庭と教育機関と地域社会がそれぞれの使命、役割を認識し、連携して支援をすべきである。なぜなら子どもは、それぞれの家庭の子どもであると同時に、人類共通の希望だからである。そこで、今、我々が大切にしなければならぬことは、伝統や文化の認識や家庭教育の必要性を強調しなければならぬと思われる。そして、グローバル化の進展の中で日本人としてのアイデンティティを持つて人類に貢献することができる人間を育成することが大切である。つまり、基本に立ち返り具体的な動きをつくることである。

今、大阪府学校教育審議会が夜間定時制の課程について審議が行われている。その報告の中で、入学状況に關していえば、定時制の課程の入学者選抜が全日制の課程の可否が判明した後を実施されていることから、全日制の課程に入学できずに、やむを得ず定時制の課程に入学している生徒が入学者の六〇%を占めている現実がある。また、就労状況は会社や工場等の事

業所等で正規社員として働いている生徒は、求人数が減少していることもあるが、平成十一年の第一学年では、一五・六%（昭和六十年代五・一・三%）と以前に比べて著しく減少している。一方、パート・アルバイトに就いている生徒は三七・〇%（昭和六十年代一七・三%）と増加している。また、就労していない生徒については、平成十一年度では三六・九%（昭和六十年代一六・七%）と増加している。中学校卒業後、すぐに定時制の課程に入学してきた者の中には、目的意識を持たないまま進学してきた生徒や、基礎学力や学習習慣が身についていない生徒も少なからず見受けられる。そこで、今後の定時制の課程のあり方として、「昼間の高等学校」という新たな枠組みが考えられている。夜間の定時制の課程に学ぶ生徒の就労状況から学びやすい環境を提供するために、単位制で昼間の定時制の課程を活用した高等学校において三部制（朝の部、昼の部、夜の部）を設ける構想の検討が必要とされている。

さて、この二月には五八名（うち定通併修三年制一二名）が卒業し、尚和会のお仲間になります。よろしくお願いいたします。

◆学校だより◆

進路状況報告

進路指導部長 熊野 純

二〇〇一年春の卒業生（五三期生）の進路状況は左表のとおりです。

本校生の進路状況はここ数年少しずつ変化してきています。その変化の中で目立った点の一つは、現役での関関同立合格者数が大幅に増加し、甲龍産近の合格者数を初めて上回ったと言

うことです。関関同立・現役合格者数八二名という数は一学年あたりの人数が九クラス二三六〇名と減少してきていることを考えると、かなり躍進したと言えるでしょう。それに対し甲龍産近・現役合格者数は六六名とやや減少しました。これは後ほど述べることも関連しますが、より社会的評価の高い大学をあくまで目指す、そのためには浪人も辞さずという層が増加しつつあるということを表しています。一方、国公立大学への志望は着実に増加

卒業生進路状況

（最近3力年合格状況）

設置など		入試	99年入試			2000年入試			2001年入試		
			現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
4 年 制 大	国 公 立	23	25	48	18	17	35	17	10	27	
	関 関 同 立	39	44	83	33	59	92	82	24	106	
	産 近 甲 龍	82	74	156	84	40	124	66	25	91	
	他 私 大	201	59	260	193	55	248	163	22	185	
大 学 校		0	1	1	0	0	0	0	0	0	
短 大	国 公 立	0	1	1	4	3	7	5	3	8	
	私 立	121	1	122	88	6	94	57	4	61	
	専修学校（看護系）		14	3	17	22	3	25	18	0	18
	専修学校（他）		33	3	36	26	5	31	26	0	26
就 職（公務員）		5 (2)	2 (1)	7 (3)	4 (3)	0	4 (3)	6 (3)	0	6 (3)	

してきています。不況という社会的背景もあるのは事実ですが、大学卒業後の就職や、自己実現のことを考えた上で国公立大学を目指す層が増えてきているのも事実です。そういった難易度の高い大学を目指す生徒が増えた結果、浪人をする生徒が昨春には増加しました。昨春には一〇〇名近い卒業生が浪人をしたのですが、今年もこの程度の浪人数がでるのではないかと考えています。

大学生の学力低下が憂慮され、大学に対する評価も大変シビアな見方がなされるようになってきた現在、本校生も本当に行きたい大学はどこなのか、本当にしたい勉強は何なのかということを一年の時から考えるよう進路指導部では取り組みを行っています。

五六期生、この一年

第一学年主任 高橋 俊行

五六期生の担任団が決まった時から、この学年で海外修学旅行を“という気持ちを持っており、それが軌道に乗って実現に向けて動き出している事が、この一年の大きな出来事です。他校から情報を集めたり、

他府県の実施状況などを参考に“英語圏”へという事になり、シンガポールが候補地となりました。その後、積極的に修学旅行の係を引き受けて下さる先生も出て、同時多発テロなどのトラブルもありましたが、現在は順調に進んでおります。是非とも成功させたいと思っています。

あと、遠足から始まった学校行事も、体育祭、クラスマッチ、文化祭、そして合唱コンクールと早くも一年が終わろうとしており、体育館修理のため、豊中市民会館で合格者説明を行ったのがつい、最近のように思われます。これからも、良い伝統は守り、改善すべき所は変えて、頑張っていくと思っています。おそらく来年のこの原稿はシンガポールの事で一杯になっていると思います。

一年間を

ふりかえって

養護教諭 佐藤 容子

平成十三年度、桜塚高等学校の養護教諭として着任し早一年。

日々、保健室で生徒と関わる中で、子どもを取り巻く環境はストレスが多く、

心身の健康に影響を及ぼしていることを痛感します。外傷の処置だけでなく、学業や友人・親子関係の悩みや倦怠感・頭痛・腹痛いわゆる不定愁訴まで、年間約千三百人の生徒たちが「心と体」で訴えてきます。本校は、平成十一年度から三年間、文部科学省エイズ教育推進地域事業における豊中市の協力校となり、平成十三年度は集大成の年でした。そこで、その取り組みの一端を紹介します。

九月文化祭において、生徒保健委員会活動の一環として、初めての試みですが、小・中・高校の校種を越えて、地域との連携のもと、豊中市立高川小学校、第十中学校の児童生徒保健委員とともに、本校生徒保健委員が保護者の協力を得て、指導力を発揮しながら、「展示」「レッドリボン活動」によるエイズ予防啓発活動を行いました。

十一月健康教育として、HIVと人権・情報センター理事長 五島真理為さんを講師にお迎えして、「エイズ」をテーマに講演会を、予防教育だけでなく、いのち、心の教育、人権教育の側面から、保護者とともに学ぶ機会として企画しました。エイズ患者、感染者への

の支援活動の中で、「ブラジルのストリートチルドレンは、余命一〇ヶ月である。エイズの心配より、今夜の寝床を探すことが命に関わる」という壮絶な現実に触れた体験を通し、「生命の尊さ」を訴えられた講演要旨でした。

その数日後、服飾関係の職業を目指す三年生の女生徒が保健室で、こんな話をしてくれました。

家族で講演内容が話題になり、「私は恵まれすぎていると思う。このまま大学進学し、華やかなファッションの仕事をしていいのだろうか；もつと、人のためになる生き方をしないと；」と話したら、父親が「衣服というものは、華やかなものばかりではない。働く人は、作業に適した機能的で安全な服が必要である。障害を抱えた人は、着替えやすい服が必要である；」とそれぞれの生きる道で、人のためになる仕事をすればよいと、娘に助言されたようです。

私は、将来への希望と使命感に満ちて話す女生徒の姿から、学校が情報発信すれば、生徒を通じて、家庭がこれを受け止め、子どもの成長を育む親・家庭の姿に深く感銘しました。

このように、真剣に考え生きていくとする生徒たちが、二十一世紀の人材となり社会で活躍していく姿を誇りに感じるとともに、桜塚高校の良き伝統が築かれていく原点がここにあるのではないかと思います。最後に、尚和会の皆さまにおかれましては、益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

携帯電話指導

について

生活指導部 小野 満由美

携帯電話はとても便利な機器であるが、マナーを守らないと、これほど迷惑な機器もほかに例がない。今日、携帯電話の急速な普及により、さまざまな問題が表面化している。病院や電車の中でのマナーの問題、出会い系サイトにかかわる事件の続発、迷惑メールや「ワン切り」の被害など、数え上げたらきりが無い。本校においても、ニュースや新聞で話題になるたびに、携帯電話に関して注意を喚起する指導を行ってきた。

携帯電話のさまざまな問題についての指導に苦慮している最中、二月九日付の新聞に、次のような記事があった。「和歌山県教育委

員会は八日、県内の公立学校では原則として登下校を含め、携帯電話の持ち込みを禁止することを決め、中学校など県立学校のほか、小中学校についても、各市町村教委を通じて指導の徹底を通知した」というものである。和歌山県教委がこのような通達を出したのは、「高校生のうち約八割が携帯電話を所持し、授業中使用経験者は、女子で七割以上、男子で六割だった」というアンケート結果に基づき、「携帯電話を使った出会い系サイトからむ事件が続発しているほか、授業中に電子メールを送受信したり、登下校中に自転車に乗りながら使用したりするケースが、安全面でも問題があると判断した」ためだという。

先日、本校保健部が行ったアンケート（一〇クラス四〇三名に実施）によると、本校でも約九割近い生徒が携帯電話を持っている。その所持率の増加とともに、携帯電話指導件数も、今年は遂にのべ一〇〇件を超えてしまった。内訳は、一年生四八件、二年生二八件、三年生二四件である。扱いに慣れていないせいなのか、やはり携帯電話を持つて間がない一年生の指導件数が多い。

週五日制導入に思う

教務部長 林 茂幹

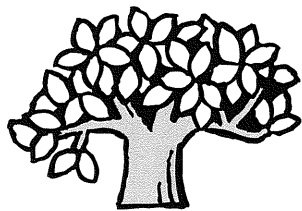
い。授業中にメールをして指導を受けたものも数件あったが、指導を受けた理由のほとんどは、授業中に電源を切っていないかったため、着信音が鳴ったというものである。授業中に電源を切っていないのは、メールが入った時すぐに見ることができるようという気持ちの表れであり、授業に前向きであるとは言いがたい。指導に際しては、成績の状況、携帯電話所持の経緯（所持を希望したのは親子どちらか）、携帯電話使用に当たって約束したことなどを、必ず聞くことにしている。話を聞いて、意外に思ったのは、マナーや携帯電話の危険性について、子供にきちんと話をしていく保護者が案外少ないことであつた。

平成十四年度からは週五日制が導入され、平成十五年度から新学習指導要領が高等学校において年次順に実施されます。これらの教育改革により、授業時数が週あたり三〇時間になり、教育課程には新たに教科「情報」と教育領域「総合的な学習の時間」が設定されます。そして、三年間で履修する必修単位数が減らされ、自由選択科目や学校設定教科・科目が増やされます。

短い周期で目まぐるしく次々に興味を引く新しいものが登場し、価値観も多様化した現代においては、何でもかんでも単に禁止では対応できないことも多い。携帯電話についても、持たせるか持たせないかは、保護者の責任の範疇である。親子でじっくり話し合つて、もし持たせるなら、扱い方ひとつで危険な機器に変わることが十分認識させることが大切であらう。

は高等教育機関へ進学しております。そこで学校としてましては、生徒の多様な進路に対応できるように、選択できる教科科目や組み合わせを適切に設定し、生徒が希望する進路を実現できる教育サービスを提供している教育課程の編成を検討しています。

しかし、教育活動は教職員だけで成り立つのではなく、学ぶ側の態度がその成果を左右するといえます。今年から土・日曜日が休日となります。これまで以上に時間の管理が生徒や家庭に委ねられる部分が多くなります。有限の時間をどのように使うか、目標をしっかりと立て、その実現のために日々努力する生き方を確立していくことが大切と思われまふ。生徒は単に教えられ学ばせる客体ではなく、自ら学ぶ主体という意識の転換が強く求められています。



〇クラブだより〇

女子バレー部

顧問 伊藤 将史

昨年（平成十三年）の三月で前顧問の古川先生が転勤され、今年度からは、男女共、バレーボール部の顧問に古橋先生になつていただき、女子バレーボール部はスタートしました。今までのチームの「核」であり、「精神的な柱」である人がいなくなつたのは、部員たちにとって不安な部分が大きかつたと思います。しかし、そんな部分を感じさせることなく、キャプテンを中心に必死に練習や試合に取り組んでいました。それも、古川先生の教えと伝統の「桜魂」が心の中にあつたからだと思ひます。残念ながら、目標の「近畿大会出場」は果たせませんでした。地区選抜大会にはキャプテンとリベロの二人も選出されるという結果を残しました。

六月からは新チームになり、いくつかの試合を行いました。はつきりいって、今のところ結果らしい結果はありません。一月に行わ

れた「春の高校バレー」の予選では、屈辱的な負けを喫しました。私も部員たちも大きなショックを受け、チームとしてどん底まで落ちたいという状態でした。しかし、チームを立て直すために、気持ちを切り換え、一人一人が心機一転を図りました。その結果がどうか、練習や練習試合でも、私の予想を上回る程のよい兆しが見られるようになってきました。

私の指導力不足が結果に結びつかないのだと、日々反省し、試行錯誤をくり返しながら練習をしています。ただ、今は発展途上ではありますが、上昇の方向に向かつていると信じています。部員たちが、今の気持ちを忘れず練習に取り組みめば、さらなる成長を成し遂げ、近畿大会に出場できると思ひつています。

OGの方々も「桜魂」を持つている後輩たちの応援をよろしく願ひします。



陸上部

顧問 野村 勝太郎

昨春より陸上部の顧問を務めていた野村勝太郎です。現在部員は三五名で、毎日グラウンドで練習しています。

さて、今年の三年生の成績について、前号で報告した中瀬史人君は、大阪中央大会で四百Mに出場し準決勝に進出するも、健闘むなしく決勝に進むことができなかった。しかし彼の記録は、今シーズン大阪ベスト七位の記録でした。

一年生は二〇名入部して夏の大会に向け基礎練習を続け、その結果、新人戦ではそれなりの成績を残した。その戦績を紹介すると、まず三段跳びで熊内幸啓君が大阪大会優勝、近畿大会第三位の成績をあげた。他の選手は、近畿大会には惜しくも出場をのがしたが、田野岡陽介君が四百Mハドル、中山和也君が走り幅跳びでそれぞれ大阪大会第四位に入賞した。またリレー種目においても、一年生男子が、四×百Mリレーで第七位の成績であつた。現在、来期のシーズンに向け冬季練習に励む毎日である。

二月初旬、ある日のミーティングでの話……

「人間、努力しない者に栄光はない。努力のすえに喜びが有る。追われる者は追う者以上に努力しないと、いつかは必ず追い抜かれてしまう。また、追う者は追われる者以上に努力しなければ、永遠に追いつき追い越すことはできない。そして努力は人に隠れてするもの。自分の中で『やらされている』のではなく、『自主的に進んでやる』ことが大切である。」

日々、自分の夢に向かって部員達は邁進している。



サッカー部

顧問 山口 守

今年度のサッカー部公式戦はよもやの一回戦負けから始まった。その前の新人戦で三回戦まで進み、今度は四回戦以上をめざしていた三年生のシヨックは大きく、結局そのまま引退となつてしまった。しかし、五

四期生のクラブの取り組みは、その悲惨な結果とは別に、立派なものであった。今後の人生において、あの時の悔しさをバネに大きく羽ばたいてもらいたいと思う。

さて、そんなわけで今年度は、四月中に世代交代があり、それ以降は五期生の取り組みとなった。五期生のサッカー部は、考えられないほど、クラブ内のごたごたが多かった学年である。しかし、そんな中でも地道にクラブに取り組んだ生徒たちの力によって、久々に大阪ベスト三二に食い込んだ。

公式戦の戦績は単なる結果に過ぎないし、偶然に左右されることが多い。一番大切なのは、チームが一つになり、同じ目標をめざして努力することである。そして、最終的にチームのみんなが何か一つのこと成し遂げたという実感を持つことである。そう言う意味では、五期生はその実感を持っているだろう。そして、その結果としてかけがえない仲間を得ただろう。五期生はどうだろうか。まだまだ、道半ばであるが、彼らも、戦績より大切なものを最後にはつかんでくれると固く信じている。

女子バスケットボール部

顧問 高橋 俊行

この五年間安定した結果を残しており、ベスト八一六程度のレベルを保っています。部員が少なく練習も大変なのですが、卒業生が時間を作って練習に参加してくれており、非常に助かっております。今年卒業の五期生が大学でバスケットをやってくれる事になり、卒業生が大学の一部や二部で活躍してくれるのも、楽しみになっています。

現在の新しいチームはケガ人が続出して苦しいチーム作りとなっておりますが、一人一人の頑張りがあり、今度の新人戦も何とか地区のベスト四に残りました。練習は不可能を可能にするの精神で頑張っています。

公式戦結果(二月)
二回戦 桜塚94-26吹田東
三回戦 桜塚64-17茨木西
四回戦 桜塚51-41千里
準決勝 桜塚25-120薫英
北地区ベスト四で中央大会へ



◆鐘のひびき◆

創立六五周年を お祝いして

高女二期 榎本 英子

母校の創立六五周年をお祝いできますことは、この上もない喜びです。会報その他いつもお手数をかけております。ありがとうございます。

教育の荒廃が叫ばれて久しいのですが、六〇年以上も遠い日のセーラー服の頃に思いを馳せてのどかな時代を懐かしんでおります。最近「〇〇新聞

一五期生日本一に!!

一五期 大畠 光昭

凄いい同期生が誕生したものだ。昨年九月ゴルフの関西シニア選手権で優勝前田信輔君、二位中村稔君。両君とも一五期生で優勝争いを演じた。そして十一月二人揃って二〇〇一年日本シニア選手権に出場。見事前田君が優勝日本一に。惜しくも中村君は上位入賞を逸した。

十二月一日大阪ヒルトンホテルにて祝勝会が開かれ同期生数人とお祝いに駆けつけ、関西の著名なアマチュア多数も出席。盛大なパーティであった。前田君は高校時代からクラブを握りもう四十数年。関西アマでは実力ナンバーワン。一方中村君はサラリーマンゴルフを経て、本格的に取り組んだのは独立した平成五年から。六年連続を含んで七回のクラブ選手権保持者。

ですが、草創期の先生方の思い出を：名物先生とか：」などと言って電話がかかってきます。徳島に移り住んで長い私も、こうした電話に接するとたまに懐かしいものです。年々の同期会をお世話になっていますが、心待ちにしております。八〇近くなった今も思い出の母校を訪ねたいと思いつつこの拙文を書いていると、鐘の響きが聞こえてくるようです。

母校の更なるご発展と尚和会のご活躍をお祈りしております。

毎朝三時起床で練習場へ。夜の我々の付き合いは一次会のみで九時迄には就寝。還暦まであと二年余りとは思えないとにかく凄いいスタミナパワーの持ち主である。いい意味で両君が競い合い関西シニアの雄となり、今年から日本シニアで二人共ベストテンを目標に頑張ってもらいたいと思っている。

写真左から三人目前田君、四人目村君

前田 信 輔 氏
2001年 日本シニア選手権 祝勝会



同期会報告

豊中高女一期 喜寿の節目の同期会

幹事 内藤 純子
越水 ユリ
奥村富美子

日時：平成十三年十月二日（火）

場所：大阪ガーデンパレス
大阪市淀川区西宮

出席者：四〇名
当日欠席二名

入学と同時に戦争が始まり何時までも世の中の大変な時代に生活し…平和な時代をと思つて居ります矢先、又々世相が一変又、食料品までが信用出来ない時代となり落付く時がありません。

そうして何時の間にか年令も喜寿となり毎年開いて居ります同窓会たいした事は出来なかつたので形だけのお祝いとして紅白のおまんじゅうを用意し年相應の食事を注文して楽しい一日を送りました。

場所が地下鉄の階段、私鉄の高架により又階段と集合場所に一苦労しました。



でも皆さん定刻にはきちんと集合、遠来の友も何はさておき出席、卒業以来始めての方も有り、和気あいあいとして積る話にわいわいがやがや丸テーブル一つに若いボーイさんがサービスマンでいる人もありました。

集合写真はそれなり、いやそれ以上に写つて居ります。

そうこうして三〇分オーバーで閉会となり又元氣な

姿をと、三々五々に別れ、階下の喫茶で二次会となりました。

高女二期同期会

力身 康子

一年はやく喜寿を記念してとの名目で、高女二期同窓会が開かれたのは昨秋、平成十三年吉日、参加者四名。一応の盛会であつた。殆どが毎回同じような顔ぶれであるが、今回はじめてという馬木さんが東京から、村田さんが岡山からのわざわざの参加は嬉しく懐かしいものであつた。顔を合わせると、六〇年もの空白の歳月が忽ち消え去つてしまふのは、同期会ならではの魅力であらう。和気藹々の中に数時間はまたたく間に過ぎた。

思えば、私達が入学した、昭和十三年の大阪府立第十四（豊中）高等女学校は、新設校の意気に燃えた諸先生方の熱意もさながら、赤屋根、うす緑の瀟洒な新校舎に日本庭園という、好環境と相まって、戦中ながら、かなり情操的に恵まれた青春時代であつたと思う。

現代は、戦後の価値感の転倒、風俗思想の変化等々、往時は幻の如き感がしない



温泉ダイヤモンドソサエティにて同期会を行いました。

三四名の御出席で内二名一泊いたしました。すばらしい有馬温泉のお湯で日頃の疲れを癒し遠方より御来会下さった方々ともなつかしいのしい語らいで一夜をすごしました。

会費は格安、お料理は美味しいと皆様に喜んで戴き盛会の内に次回の再会を約し合いつつ雨の有馬をあとにしました。

計報

楠智子様（旧姓 古川）
林美沙子様（旧姓 大河原）

でもないが、そのよき頃を共通の思い出として持つ集いは、残された年月も少ない私達にとつて、実に貴重な時間であつたといえよう。

よき伝統をのこしつつ、日本国の将来のため、後進の方々のご活躍を心から祈りつつ、ご報告の一文の結びとしたい。

高女四期会だより

永井 徳子

平成十三年五月二二日（月）～二三日（火）有馬



思い出をなつかしみつつご冥福をお祈りいたします

幹事

田畑 島村 豊田

来期の幹事

上山 桑原（関本） 津川（今中） 富樫（辻）様
にお願いいたしました。

高女五期会

幹事一同

この度交通の便利な皆様を集って頂きやすい場所を探して、平成十三年十一月十三日に京都御所の烏丸通りを隔てたお隣の平安会館で六〇名出席で五期生会を開催致しました。

少し早く出て御所を歩いて来たと言う人や、折角京都に來たので何処か一ヶ寺でも見て帰りたいと言う人の声の聞こえて来る中、十一時三〇分受付もそろそろ終り写真撮影の時間が参りましたが東京組の六人のお顔が見えなくて案じて居りましたら、京都駅で一人迷子になったので少しおくれますとの連絡、十二時すぎやっと皆様の揃った所で記念撮影となり、続いて円形の大テーブルに自由にお座り頂き楽しいお食事の宴が



始まりました。
今の度は珍しく東京から六名も出席されましたので一人づつマイクの前でお話をお願いしましたが、五〇年ぶりに始めて出席して本当に嬉しかったと云って下さった方もありました。
同窓会の写真発送も終わりました頃、心暖まる五期生会を有り難うございましたとのお便りを何通か頂き、卒業以来五七年もの月日が夢の様に過ぎましたが、この様に六〇名もの方達とお逢い出来たことは本当に嬉しく思っています。
今回は奈良在住の方達が

お受け下さいましたので、又お元気で多くの方達とお目にかかれそうですのを楽しみに致しております。

高三期 卒業五〇年 記念同期会

谷田 探成

母校桜塚を卒業して丁度半世紀が経ちました。永い様でもあり又短い五〇年でした。

十月開催なのに、一年位前からPRした甲斐があったのか、全国各地から寄るも寄ったり、何と八人の旧師を入れて一六一名が、梅田の新阪急ホテルにどっと集まったのは幹事一同びつくり仰天、今迄の約二倍の人数が集まったのですから、時十月十三日正午。

おさまりの代表挨拶、来賓祝辞、乾杯と続いて、盟友校池田高校同期生よりの祝電披露、尚和会よりの祝金、四期生からの御祝披露があり、記念大会のため母校桜塚に記念植樹『辛夷』を贈ることに決定した。
宴たけなわの後ビンゴゲーム、宗倉節子さんのピアノ指導で懐かしい歌を数曲合唱したのも束の間で、予定の時間となりました。



二次会、三次会と席を変えても仲々散会とならなかったのは、やはりひさしぶりの友達だったためか、最後に悔やまれるのは、この四日後に、あの真鍋正一君の急逝でした。合掌

高五期 新世紀記念 同期会ご報告

二〇〇一年十月二十八日(日) 大阪駅前第一ビルB1の『King of Kings』にて出席者六三名、二次会はニュー・トーキョーにて四名参加
ご出席いただいた皆様へ

の世話人よりのお礼状をご披露し、ご報告に替えさせて頂きます。

謹啓

新世紀を迎えた今年も残り僅かとなりました。

二〇〇一年五期会では大勢の皆様のご出席を賜り、世話人一同喜びと共に、厚く感謝申し上げます。

乾杯のご発声を戴いた岩崎幸夫君の『よき友は一生の宝』の合言葉や、止む無く欠席され、会費の倍額以上のご寄付を寄せて戴いた大槻和夫君の『是非とも出席し、元氣な皆さんにお会いして元氣一杯にして貰いたかった』というお便りなど、しみじみ思い返しております。

遠方在住の方々も、遠路わざわざ駆けつけて戴きまことにありがとうございます。

来年も是非集まりたいとの声も多かったと拝察致しておりますが、再来年は卒業五〇周年記念(併せて古希)に当たりますので、その準備会としてもこのような会を企画したいと考えております。

その節は是非ご協力の程、伏してお願ひ申し上げます。

当日の会計報告と、毛利正幸、山口萌三両君及び村上美智子さんに撮影戴いた写真を同封させて頂きました。

歳は争えず、病の為出席を断念された方、重病を克服された方なども次第に増えてまいりました。向寒の砌、皆様方にはくれぐれもご自愛下さい。

敬具

五期会 世話人一同

高一期生 還暦記念同期会報告

吉田 和久

新世紀を迎え、最後の戦前生まれ世代が「還暦」という節目を記念して去る六月二日に「ホテルアイボリー」において、「記念同期会」を開催いたしました。

四名の恩師と八一名の同期生が参集し、遙か彼方から昔の記憶を手繰り寄せ、懐かしい思い出話を忘れました。

今回は、二年振りの開催にもかかわらず、沢山出席されました。

東西の遠方から駆け付けた学友や、近くに住みながら日ごろご無沙汰している皆さんと尽きぬ話に夢中になるうちに、決められた時

間も過ぎ去り、今回の「四五周年記念同期会」での再会を約束して散会しました。

みなさま、ありがとうございました。

高五期 同期会報告

末廣 孝子

二五期理事田中広和氏の呼びかけにより、平成十三年九月八日ホテルアイボリーで、同期会を開催いたしました。卒業後二八年の間、クラス別には同窓会もされていたらしいのですが、全体としては初めてのことで、まず名簿作成からの仕事となりました。私も三年一〇組の幹事と言われたものの、卒業後は神戸、現在は明石ですので、どれ程お役に立てるかわかりませんが、幹事の一人として名簿作りが始まりました。さあ、どうやって、どこから手をつければいいのかと思ひあぐねておりましたら、小合(望月)孝子さんから古い名簿や、最新の名簿、その他いろいろな資料が送られ、それと並行してアドバイスもいただき、ただ感心するばかりでした。この同期会の開催にあた

り、彼女の御尽力は本当に大きなものがあり、感謝いたしております。私も三年一〇組の女子一人一人に住所確認の電話をし、名簿作りのお蔭で二八年ぶりに皆様のお声を聞いた事は、何より懐かしうれしい事でした。

小合さんを始め、各クラス幹事さんの御協力ですと名簿も完成し、当日を迎えました。同期会には一三〇名程の出席があり、二八年目にして初めての同期会ですの大変な盛会となりました。尚和会からのご報告もあり私自身会費もつい忘れがちで、大いに反省するところです。その後、亡くなられた恩師と、短くとも充実した一生であつたろう友を想い、全員で黙祷を捧げました。

テーブルには美味しい料理も沢山並びましたが、それ以上に二八年間の話で会場中が盛り上がりです。中には同期で結婚された方が八組、九組いらっしゃるそう、又話に花が咲きます。クラスごとに写真も撮っていただき、帰る時には一人一枚ずつ全員に配られ、その手際の良さに感心しつつ、それは何よりの想い出となりました。

またたく間に時間は過

ぎ、二次会へは一〇名程の方が、又三次会へも七〇名程が残られ、その日は皆さんすっきり、高校生の時代に戻られたことと思います。

今回は同期会ということ、先生方のご出席はありませんでした。平成十五年には先生方もお呼びして、卒業三〇周年の同窓会を企画しております。その準備段階としての同期会でしたが、大盛会の後再会を誓い散会となりました。

このところ暗いニュースばかりの中、社会や家庭でそれぞれ日々の生活に追われがちですが、懐かしい高校時代の友人達と再会し、本当に有意義な時間を持つ事ができ、近年に無い楽しい一日でした。次の同窓会で又笑顔で皆様とお会いできます様、心から願っております。

高五一期
同窓会を振り返って

叶 裕一
山中 直樹

昨年暮れ、十二月二七日に桜塚高校五一期卒業生の大同窓会をとりおこないました。準備にとりかかったのが十二月上旬とかなり

遅かったのですが、皆さんが暮れの忙しい中、時間を作ってくださり、一〇名もの人が参加しました。

当日は夕方六時から阪急豊中駅前ホテルアイボリーにおいて立食形式で行いました。皆友達と会うのが久々だったようで近況や昔の事を楽しく話しているようでした。中には卒業時とは想像もつかない程、変貌している人やお酒がかなり入って元気いっぱいの人もいたり大盛り上がりでありつという間に、時間が過ぎました。今回は急遽、同窓会のお知らせをしたにもかかわらず、一〇名の卒業生が参加し、大変盛り上がったので同窓会を企画した我々もうれしく思います。

また、色々と言、手助けをしていただいたOBの方には、改めてお礼を言いたいと思います。ありがとうございます。次の機会があれば今度は早めにお知らせします。その時は今回来た人も来ていない人も参加してください。次回皆さんに会えることを楽しみにしています。

同期会 予告

卒業六〇周年記念
一期会 ご案内

高三期同期会

昨年は卒業四〇周年でしたが、今年還暦を迎えることでもあり、まとめて十四年の秋ごろ同期会を開催しようとしております。

日時 十一月十五日
場所 不死王閣(池田)
会費 六、〇〇〇円
事情出来、六月不可能
詳細はハガキにて。

日時等決まりましたら別途ご案内致しますので、出来る限りのご参加をお願い致します。

高五期卒業五〇周年
記念準備会のご案内

高二〇期卒業
三五周年記念同期会

日時 二〇〇二年
五月二十六日(日)

事務局 細川和彦

午後一時～三時半
King of kings
パーティー会場
(大阪駅前第二ビルB1)

二〇期生の皆様、お元気でいらつしやいますか。五年ぶりに、第五回目の同期会を開催することになりました。私達も五〇代になり色々大変な時期ですが、一日高校時代に帰って楽しい時を過ごしませんか。ぜひご参加下さい。

TEL 〇六―六三四五―
三二〇〇

TEL 〇六―六三四五―
三二〇〇

会費 四、〇〇〇円

二〇〇二年度同期会を

昨年同様の形式で開催し、来年の『卒業五〇周年記念五期会』についてもご相談したいと思っています。

皆様お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちしております。

高五期世話人一同

代表・本村 由利子
山中 清利

平成十三年物故者名

(平成十三年一月一日～十二月三十一日まで)

旧職員	秋永 実	13	8	16
	佐藤 疆	13	3	15
	馬場 愛子（早川）	13	11	9
	関 雄太郎	13	11	
女一期	入井 祥恵（柳田）	13	4	23
女三期	谷 ひろ子	13		
女四期	楠 智子（古川）	13	7	18
	林 美沙子（大河原）	13	11	13
行実	和子（川崎）	13		
女六期	保々 陽子（野尻）	13	4	2
	西村加代子（西本）	13	5	
渡辺	きよ子（岡田）	13		
高三期	真鍋 正一	13	10	17
	谷 美籠（鈴木）	13	12	6
阪倉	綾（築山）	13	12	25
高八期	足立 利幸	13		9
	上西 寛	13		
	白川 武	13		
渡辺	文昭	13		
高九期	新保 国三	13		3
高五期	古川四六三	13	9	14
高六期	齊藤 賢次	13	12	7
定五期	藤本 正行	13	5	6
■お詫びと訂正				
旧職員	中山与志夫	13	1	6
昨年度の広報紙で日付が12・8・23と掲載されておりましたので訂正いたします。				
（尚和会宛に報告のありました方のみ掲載。）				

『同期会開催支援
奨励助成金制度』発足

財務担当副会長 大畠光昭

一、目的

新世紀に向けて、新生尚和会を構築し、創造的な事業活動を展開するために、同期会の活性化に取り組む必要がある。その意味で、同期会の開催を支援、奨励する目的の制度である。

二、助成金交付対象期

尚和会会員が同期会を計画、開催実施しようとするもので、その同期会が卒業五周年以降五周年単位で開催される期であること。なお、卒業後最初の同期会が右記の周年でなくても助成金を交付する。

三、助成金の額

五〇、〇〇〇円とする。

四、申請の手続き

開催する同期会の代表幹事が書面（同期会助成金交付申請書）にて、尚和会会長宛に同期会開催一ヶ月前迄に提出又は郵送する。

五、助成金の交付

「同期会助成金交付申請書」受理後速やかに同期会開催迄に支払う。

六、実施日

平成十三年九月一日より

「同窓会活性化を促す会報有料制」

高二五期 原 稔 寿子

「会報の有料制に平成十年より踏み切ります!!」四年前の理事会でそう報告を受けた時、理事になりたての私は、「お金を取るの?」と思わずつぶやいてしまった。誰でも財布からお足が出ていくのは嫌なものである。殊に、それまで尚和会とは無縁であると決め込んで来た私にとって会報はタダで送って来るものだと気にもせずいたのだから尚更である。

が、縁あって理事という肩書きをいただきはたと立ち止まってみると、尚和会の運営は毎年新入約四百名を加え増え続けるにもかかわらず（現在約三万二千人）、たった九百余名の協力金と新入会員の入会金だけで支えられていたことに驚き恐縮してしまった。まさに、無関心が引き起こす尚和会の財政危機である。殆どの会員（ここでは二〇期以降とした方がよいかも知れない）は、会員という意識も関心もなく、ましてや悪気などある筈もない。しかし、理事になった以上知らぬ存ぜぬで済むものではなく、理事として現状を把握し今後の方針をせめて同期に正確に伝える事は義務であると今日現在までお手伝いさせて頂いている。

聞く所によると、会報の有料化は尚和会に限らず他の同窓会もこれが主流である様だ。どう考えても増え続ける会員に無料で会報を送り続ければ、当然財政は破綻する。役員の方々が四年前に有料制に踏み切られたことは当然の成行だったのだ。

現在発送は約五、〇〇〇件に減ったにもかかわらず一、八〇〇件もの協力金が入るようになったと報告を受けている。これは何を意味しているか?尚和会に積極的に参画し、意識を持っている人をあぶり出しのようには明確に示しているのがある。ましてや、有料制導入後四年連続しての好決算（協力金倍増）である現状では有料制の是非を問う余地もないであろう。また、会費有料制に伴っ

て同期会開催助成金制度が設けられたが、これを利用して幾つかの同期会が催されている。私達二五期も昨年この助成金を基に、卒業以来初の同期会を開いた。幹事の努力により名簿判明率約九五%という驚異的数字通り、参加百三十数名の大盛会となった。その中で尚和会の現状、会報有料制への経緯が説明されると多くの同期生が協力金を申し出てくれた。結果的に尚和会に十五万円と完璧に近い名簿を提出することが出来たことは、まさに同期会開催により運営資金と新しい情報尚和会にもたらされ

たことに他ならない。また、出席した者が自分は桜塚高校の卒業生であり、尚和会の会員であるという自覚を持ったことが、これからの会の活性化の火種となるのではないだろうか。これがまさしく役員の方々が目指すものであると確信する。しかし、これも理事幹事が同期一人一人に会報を配り協力金をいただくという努力があつてこそ得られたもので、タダで配られて一読後ゴミ箱へ直行では何の結果も得られないのは明らかである。

尚和会の活動を
ホームページでみれます

桜塚高校のホームページの中で
同窓会をクリックしますと尚和会の
活動報告がご覧いただけます。
桜塚高校のホームページは次のアドレスです。
www.osaka-c.ed.jp/sakurazuka/z/

尚和会会報有料制について

財務担当副会長 大畠 光昭

今お読みの尚和会会報は有料制です。

- 名称 会報年会費
- 年会費 1,000円 (同封の振込用紙にてお振込み下さい)
- 会報発送対象者

卒業年	卒業期	会報発送期間
平成14年	高54期 定52期	平成14年から5年間平成18年迄
平成13年	高53期 定51期	平成13年から5年間平成17年迄
平成12年	高52期 定50期	平成12年から5年間平成16年迄
平成11年	高51期 定49期	平成11年から5年間平成15年迄
平成10年	高50期 定48期	平成14年のみ
平成9年以前	高49期 定47期以前	毎会計年度末（3月31日）を年会費納入期限とし、会費納入者に対し、次年度のみ会報を発送。

お便りから

高女二期 塚田 京子
私事白内障の手術で入院しまして五月三日退院しましたので、大変おくれに僅か送付します。

高女二期 高木 春子
尚和会の長期存続と発展は役員の皆様の御苦勞、御努力の賜物と常々感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

高女二期 中村 徳子
(旧姓・佐藤)
「尚和会会報」を中村安蔵(旧職員)と二部送っていただいておりますが、次回から一部で結構でございます。よろしく。

高女二期 近藤 英子
(旧姓・能勢)
久しぶりの会報、有難く拝見致しました。今眼が不自由乍ら趣味の道は続けてまいりますつもりです。お世話を感謝致します。

高女二期 入井 正行
(旧姓・榊田純子のご主人)
早速ですが、妻・祥恵は四月二三日薬石の甲斐なく他界いたしました。生前は大変お世話になり、ありがとうございました。

高女二期 野上 聡子
十月十日二期生の同期会に出席してたのしうございました。

高女三期 小倉 澄子
平成十三年四月一九日宝塚のホテル若水で三期会の同窓会を致しました。出席者四八名のなつかしい方々が集いたのしい一日でした。

高女三期 俣野 加代
(旧姓・河井)
孫の様な後輩のいる我が母校、毎年の会報を楽しく読んでいます。編集の皆様の御苦勞に感謝です。

高女三期 勝野 瑤子
(旧姓・中川)
会報二〇〇一年号嬉しく拝見しました。殊に表紙の外壁がなつかしくそのままだるのが嬉しい限りです。

高女三期 長山 千加
(旧姓・橋本)
お世話さまになります。尚和会のお便りなつかしく拝見させて頂きました。高齢化社会の一人になった今、半健康ですが、日々感謝して過ごしています。

高女三期 林 正宏
大型連休日の会報到着ありがとうございます。表紙の「校章のある外壁」絵、素晴らしい感激いたしました。次を楽しみにして居ります。

高女三期 加藤 美子
(旧姓・藤家)
いつも大変お世話に相成

りましてありがとうございます。
来春の「四期卒業五十周年記念旅行」、今から楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

高女三期 盛野 安子
(旧姓・菱田)
私はずっとヤマハのピアノとエレクトーン講師をしています。娘はドイツの音楽大学に、音大卒業後、留学中です。

高女三期 岩本 富佐子
(旧姓・石河)
只今体調をこわしていますが、元気になりましたら東京支部会などにも出席出来るようにと願っております。

高女三期 池田 路子
(旧姓・江浪)
二〇〇一年五月一日発行の「尚和会会報」、楽しく拝見しました。表紙の外壁の絵、良いですね。

高女三期 築坂 加寿
(旧姓・牧)
東京支部は御活躍の様で、遠く離れる方が反って人が集まるのかな、などと思いましたが、幹事の皆様、何時も有難うございます。

高女三期 富岡 徹
同窓会の御世話をして下さっている皆様方に御礼を申し上げます。
会報二〇〇二を待望しています。
「早春」(三月例会老人会で詠む春を待つたなきうぐいすはつなきに

高八期 若木 美知子
(旧姓・宇和佐)
同期の会、どなたかお世話下さいませんか。お待ちしております。

高八期 山本 潔
年金生活になりましたので協力金が少なくて申し訳ありません。

高八期 福井 澄栄
(旧姓・城岸)
高一一期の(一年生)三年生に学んだ)先生方の消息(近況)を知りたいのですが。

高八期 中川 慶子
(旧姓・大橋)
先日約四十年振りに母校を訪れました。すっかり様変わりした中で、校章のある壁がタイムカプセルのように立っててくれていました。表紙の絵は貴重な思い出となります。

高八期 上田 幸子
(旧姓・内藤)
日十三・四・一に母校に大変近い豊中市立第三中学校の校長として勤務することになり嬉しく思っています。

高八期 中務 公子
創立六五周年の年には会報を卒業生全員に配布して下さい。
高八期 金指 弘
高崎氏の提案に賛同します。是非ホームページを立ち上げて下さい。

高八期 龍治 史子
(旧姓・鎌田)
会報楽しくなつかしく読

ませて頂きました。井岡先生のお名前を拝見してびっくりです。心より御冥福をお祈り致します。

高二十期 神杉 紀代子
(旧姓・渡辺)
二十年振りに大阪に戻ってきました。身体はとくとも心は「あの頃」に還ったような気分です。

高二十期 坂本 洋子
(旧姓・田中)
住所・氏名を印刷してあると便利かと。

高二十期 小西 明美
(旧姓・鏑川)
子供の学校の役員に当たり忙しくしております。高校の方になかなか協力できず、心苦しく思っております。

高二十期 小合 孝子
(旧姓・望月)
卒業二八年目にしての初めての同期会も無事終わりました。尚和会の先輩方の御指導、同期会開催助成金制度、二五期生の協力等に深く感謝します。

高二十期 上野 陽子
(旧姓・石原)
長男も桜塚高校で、先生方をはじめ多くの方のお世話になっております。
高二十期 上元 一泰
旧一五村上級同窓会を一月に開催しました。卒業を迎えられる村上先生のお元気な姿に感動しました。

高二十期 大江 さやか
(旧姓・西田)
今年一月に二八期生一

五同窓会を行いました。村上晃先生八〇歳のお祝いを兼ねて、たのしいひとときでした。

高三三期 菊川 雅之
年一回の会報を楽しみにしております。ありがとうございます。

高三三期 吉田 豊
三七期の高崎氏のホームページ作成やEメールによる情報提供などには賛成します。それに伴う協力金の新たな負担増は覚悟していますが…。

高三三期 村上 佳津子
(旧姓・真鍋)
質問。今、尚和会議室はどうなってるんですか？長らく総会でも使っていないだし、もったいないと思います。

高三三期 松下 和子
(旧姓・中津)
日十三・七月に四人目を出産予定です。桜塚在学中こんな子だくさんになるとは思ってもいませんでした。母校に恥じない立派な母になりたいです。

高三三期 佐々木 好一
桜塚を卒業して四五年、月日の過ぎゆく早さに驚くばかりです。楽しいことや、苦しいことがいっぱいあった青春時代の新聞をありがとうございます。これからもよろしく。

平成十三年度
会報年会費協力金

◆協力金をありがとうございました◆
(金額は納入合計額。千円未満の納入会
員は省略させていただきます。)

●旧職員

近松淳一
倉田順雄
井上まさ
高橋桂四郎
山田樟
石橋勘一郎
岡崎博哉
富山敏郎
山本弘
赤羽根充男
石橋三彦
相澤郎
高岸芳郎
田中恒雄
関節子
栗栖恭子

●高女二期

柳沢千吉
京彰彦
池内興彦
田内繁子
柳沢千吉
杉木勝磨
二階堂洋
永井徳子
佐藤芳子
大江悦子
長岡利子
三原節子
河合貞子
高橋田鶴子
池洲茂代
三箇山政
中島美恵子
河村令子
藤原秀子
池長十三子
佐野加岳
佐野美枝
河野美恵子
今治禮子

●高女三期

井上百合子
松溪彰子
門川田鶴子
武田紀三子
岸上道子
高木志摩子
猪瀬綾子
森玲子
小倉澄子
和和啓
吉澤幸子
西原成子
鳴海綾子
佐伯栄子
新田橋恵
門律子
吉野良子
古川寿美江
出口和子
小林三七子

●高女四期

永井徳子
佐藤芳子
大江悦子
長岡利子
三原節子
河合貞子
高橋田鶴子
池洲茂代
三箇山政
中島美恵子
河村令子
藤原秀子
池長十三子
佐野加岳
佐野美枝
河野美恵子
今治禮子

●高女五期

西川良子
行岡伸子
堀井千代子
尾方禮子
巽和子
堀井千代子
井上敏子
阪本陽子
川野悦子
定岡愛子
大里知萬子
菅原秋子

●高女六期

角川和子
青木操子
高見玖仁子
森妙子
皆部宗子
毛利克子
古澤純子
沢崎洋子
堀川隆子
木村貞子
周産年
野崎悦子
島田陽子
石黒純子
野田美代子
飯塚榮子
渡邊恵子

●高女七期

森田玲子
富田恭子
黒田長子
中村まり子
出口珠子
宮本博子
石田マリ子
湯浅敦子
高木力
谷口明子
杉山直弘
水川和弘
池崎邦夫
中島昭典
桂田久仁子
北野定子
小川尚子
東島公江
中川恭子
奥田関子
富永加陽子
工藤武敏
渡部進
湯浅温
笠原淑子
木村泰子
溝口汪子
加藤美子
増田明子
田村明子
千原
綾俊也
植田泰子
大田昌子
荒川長子
山田桂子
大槻和夫

●高女八期

小川道子
熊谷朝子
児玉愛子
川端安世
澤田眞子
柳生美津子
大野富士子
三木幸子
小島京子
新妻朋子
木方嘉子
鈴木喜代子
高橋重子
中務重子
西羅千里
浜田知子
安達良子
池永敏江
星野寛子
山口栄子
本山美智子

●高二期

太田靖子
阿萬紀美子
井上明子
石毛納子
久野慶子
上田和子
廣田智恵子
岡本秀子
関原澄子
花井登志子
安村須美恵
安田三重

●高三期

上田英之助
谷田探成
真鍋正一
内海順夫
高津弘
春木和枝
寺門良子
山陽千代子
赤崎豊
喜井美根子
佐々木義浩
森田和子
小村典子
長谷川春生
宗倉節子
高木慶子
鈴鹿裕子
高谷善雄
柳裕子
三好陽子
入江敏子

●高四期

中右吉信
林正宏
合田俊章
井上博補
山村樹
榊部洋
谷口明子
杉山直弘
水川和弘
池崎邦夫
中島昭典
桂田久仁子
北野定子
小川尚子
東島公江
中川恭子
奥田関子
富永加陽子
工藤武敏
渡部進
湯浅温
笠原淑子
木村泰子
溝口汪子
加藤美子
増田明子
田村明子
千原
綾俊也
植田泰子
大田昌子
荒川長子
山田桂子
大槻和夫

●高五期

岡本修
長澤久之
雨田忠義
山下眞一
井上真一
川崎充康
佐藤二郎
長澤佑吉
稲垣瑛子
北川弘子
小門睦子
中川光昭
森田千加子
堀江悦子
池田路子
岩瀬光子
高垣直子
紀伊滋子
増田祥子
清水房子
南みち子
中城弘子
玉田成男
秦雄三郎
福井澄栄
女川隆
山際智賀子

●高一〇期

柴草慶一
三上昌昭
山田宏子
岩崎淳
宇野和子
門脇義紘
小柳謙一
仁科照子

●高一〇期

河崎守男
古川智昭
倉内知孝
倉内孝一
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高一〇期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高一〇期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高一〇期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高一〇期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村重典子
中野泰子
中山弘子
近藤亮子
中野千鶴子
高木和子
築坂加寿

●高八期

森田司朗
谷茂男
角高安宏
渡部明彦
若木美知子
永田利地
宮武健次郎
新内明子
松井崇
天田宏子
富田康子

●高八期

河崎守男
古川智昭
倉内知孝
倉内孝一
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

●高八期

村上三喜男
上野由美
石西啓子
田中勇之祐
森寿賀子
山手章子
西村清嗣
中村喜美子
竹居恵子
渡辺歌子
竹原翠
吉田武子
井ノ口常子
峯村明子
仁科照子

[illegible]

「第三回 尚和会東京支部総会・懇親会」 二〇〇二年十一月十七日（日曜日） 正午から開催のお知らせ

※場所 東京・お茶の水 東京ガーデンパレス（JR・お茶の水、地下鉄千代田線、丸の内線の最寄り駅より徒歩5分）。

尚和会東京支部 支部長 井上 眞一（高七）

隔年開催の支部総会も、三回目を迎えることとなります。然も二十一世紀初の集いです。同窓会は「参加すること」に意義があるのではないか、新世紀の「参加しやすい同窓会」とは、どうすればよいのか、同窓という一つの絆で結ばれてはいますが、何十年にも亘る世代間の格差があるのも事実でしょう。

しかし、尚和会唯一の支部として、当初の目標である「一人でも多くの同窓生が集い、語れる場づくり」、「二つでも新しく同期会が生まれる基盤づくり」に、努めてまいります。

前回では、高女の先輩方が関東以北の同期生にも声をかけ、同期会を実施されました。本年は、「同期会開催に対する援助金」制度（申込制）もスタートしております。また、十一月の懇親会は、一人でも多くの方にご参加いただけるよう

に、支部への協力を含めて、お一人七、〇〇〇円程度の会費を予定しております。詳しいご案内は九月下旬頃に郵送させていただきます。

若い方々の参加、大歓迎です。関東エリアに在住の同窓生は、大勢（二千五百人を超す）いらっしゃると思います。

関東地区での同期会の開催が増えることは、即、支部の活性化につながるものと確信します。同期会未開催の卒期の同窓生の皆さん、今年は十一月十七日（日）に集ってみませんか。会場や人数のことなどのご心配はいりませんよ。ご相談があれば左記にご連絡下さい。

○連絡先
〒二五三-〇〇五三
神奈川県茅ヶ崎市
東海岸北三一五-二七
東京支部長 井上 眞一

TEL・FAX
〇四六七-八三一・二四〇四

●同窓生出演（予定）

西畑 正三氏（にしはたまさみ）
フルート奏者。府立桜塚高校、高二三期卒業生。

一二歳よりフルートを始める。一九七四年、東京芸術大学音楽学部在学中、「カラヤンコンクール」で優勝。一九八〇年大学院卒業。その間、フランス・スイスにて多数の演奏会に出演。その後、新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。小沢征爾氏のもとで研鑽、退団後ソリストとして活躍中。

リサイタル多数開催の他、「フルートセミナー」を主催し、後進の指導にあたっている。

現在、くらしき作陽大学音楽科非常勤講師。



◆教職員人事異動◆ （平成十四年度）

全日制課程

退職

関谷 茂紀（校長）
（関西福祉科学大学高等学校副校長へ）
転任

鳥越 克明（教頭）
（桃谷高等学校定時制教頭へ）
湯原 春美（教諭・国語）
（阿武野高等学校へ）
小原 明代（教諭・国語）
（小路高等学校へ）
渡部 栄子（教諭・国語）
（柴島高等学校へ）
松岡 保夫（教諭・数学）
（淀川工業高等学校へ）

プロフィール

笑福亭 仁勇 二九期生 （本名 山澤 健二）

高校卒業後、笑福亭仁鶴師匠に入門し、今や古典落語はもろろんのこと、大道芸、チャリティー寄席を開催し、児童・高齢者福祉に貢献されています。

真田 豊実 三〇期生
高校卒業後、近大へ進み、幼い頃よりマジックに興味を持ち、今



仁田尾潤子（教諭・英語）
（渋谷高等学校へ）
安川 晶子（教諭・英語）
（刀根山高等学校へ）
藤田 正美（主査・事務）
（茨木養護学校へ）

定時制課程
退職
松本 輝明（教諭・社会）
（桜塚高等学校定時制特嘱へ）
乾 泰征（教諭・理科）
（桜塚高等学校定時制特嘱へ）
助永 芳子（実習助手）

着任
長瀬 尚（校長）
（福井高等学校より）
小原幸四郎（教頭）
（鳥飼高等学校より）
濱地 茂樹（教諭・国語）
（大商学園高等学校より）
北宮 康史（教諭・英語）
（池田高等学校より）
戸田 緑（教諭・英語）
（北千里高等学校より）
大西 伸世（教諭・英語）
（野崎高等学校より）
万野 浩稔（主査・事務）
（港南高等学校より）

転入
森尾 俊三（教頭）
（桜塚高等学校定時制教諭より）
金井 史（教諭・国語）
（桃谷高等学校通信制より）
岩田 尚道（実習助手）
（城山高等学校より）
茨木 隆司（技師）
（東豊中高等学校より）

や国内外のコンテストで数々受賞し、テレビでも世界的マジシャンとして活躍されています。カードを扱えば世界一。彼にしか出来ない超美技をご覧ください。

●編集後記●

四月から田中渡新体制がスタートしました。まず、長年にわたり尚和会の発展につくされた荻野前会長をはじめ、役員の方々に心からお礼を申し上げます。

さて、平成十一年度から取り入れられた会報有料制も会員諸氏のご理解を頂き、年々充実した会の運営が行われています。

さらに親しまれる会報をめざして、スタッフ一同頑張っていますが、より一層の充実をはかるため、皆様のご意見や情報をどしどしご寄稿下さい。

安浦 果